

授業科目名	保育の国際比較:ヨーロッパと日本	
単位数	2	
授業形態		
講義コード	5706	
授業担当者氏名	五十嵐淳子(イガラシ ジュンコ)	
授業の到達目標 (ディプロマポリシーとの関連)	①欧米諸国と日本・アジア諸国の保育の違いを踏まえ、国際的な保育を取り巻く動向を理解することができる。 ②諸外国の保育や子育て支援の比較を通じたグループワークにより、様々な視点から総合的に保育を捉えることができるようになる。 ③日本の保育・子育て支援について再考し、具体的に自分の考えを述べるようになる。	
授業概要	この授業は、保育の国際比較として、ヨーロッパを中心とした欧米諸国と日本を含めたアジア諸国の現在の動向を探求する。グループワークを通して、レジュメを作成し発表を通して、ディスカッションを行い、様々な視点から保育や子育て支援についての学びを深める。	
教育課程内の位置づけ	基礎教養科目 人間と社会・文化 3年 選択	
授業におけるアクティブな特徴		特徴 該当
	A:課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり	-
	B:課題解決型(PBL)連携なし	-
	C:討議(ディスカッション、ディベート等)	-
	D:グループワーク	-
	E:プレゼンテーション	-
	F:実習、フィールドワーク	-
	G:双方向授業(ICT活用なし:対話型、リアクションペーパー等)	-
	H:双方向授業(ICT活用あり:クリッカー、manaba等)	-
	I:反転授業	-
	J:外国語のみで行われる授業	-
授業計画	第1回	オリエンテーション 保育の国際比較とは、授業概要と受講上の説明
	第2回	日本における保育・子育て支援の実際
	第3回	多文化保育・教育について
	第4回	子育て支援に関する諸外国の現状
	第5回	イタリア・フランス・イギリス・北欧等の欧米諸国の保育
	第6回	グループ報告① イタリア レッジョ・エミリアの保育
	第7回	グループ報告② 北欧の保育・子育て支援
	第8回	グループ報告③ フランスの保育・子育て支援
	第9回	グループ報告④ イギリスの保育・子育て支援
	第10回	グループ報告⑤ ドイツの保育・子育て支援
	第11回	グループ報告⑥ アメリカの保育・子育て支援
	第12回	グループ報告⑦ アジア諸国の保育・子育て支援
	第13回	グループ報告⑧ 日本の保育・子育て支援
	第14回	まとめ 重要事項の整理と確認
授業外学修予習(事前学修)	各授業 毎回の授業の予習として100分程度、報告担当する国の資料や文献を探して読んでおくこと。 [平均120分] また、グループ発表のための資料を収集し、発表準備を最低でも120分程度は行うようにすることが必要である。	
授業外学修復習(事後学修)	各授業 授業後は、学習内容のポイントを整理し100分程度の復習をしておくこと。 [平均100分] 他の人の発表や意見をフィードバックしてまとめておくこと。	
評価方法	平常点20%、発表40%、レポート課題40%	
教科書等	五十嵐淳子・船田鈴子『保育の学びを深める 子育て支援の実際』大学図書出版	
課題に対するフィードバックの方法 その他	各発表に対して必ずコメントを伝えるようにする。学生同士の意見交換を行い、課題に対してフィードバックできるようにする。	
授業担当者の実務経験の有無	実務経験あり	
授業担当者の実務経験の内容	日本の保育・子育て支援と諸外国の保育・子育て支援の比較研究の実務やインターナショナルスクールの勤務経験を活かして、事例をあげて実践的な授業を行う。	
ファイル		